

南部町ミニデータ

- 人口 18,001人
(男8,554人、女9,447人)
- 世帯数 7,454世帯
(令和元年8月1日現在)
- 特産品
さくらんぼ、りんご、セネラル・レクラークなど果実が豊富です。

【概況】青森県の南東に位置する。町の中央を流れる馬淵川の沿岸部は帯状に平野部が広がり、南西部には標高615mの名久井岳を臨み、山と川、流域には田園風景が広がる豊かな自然に恵まれています。



青森県の 市町村 情報

南部町発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等をご紹介します。
今回は『NPO法人なんぶねっと』をご紹介します。
理事長の四戸泰明さんにお話を伺いました。



▲理事長の四戸さん。NPO法人なんぶねっとが営む農家cafeこみゅでは、新鮮な野菜や果物を使ったランチやスイーツが楽しめます。

人脈と経験を駆使して 地域課題に取り組む

なんぶねっととは、平成15年、任意団体からスタートしました。地元の社会福祉協議会にリターン就職した四戸泰明さんが事務局を担い、小学生から高齢者までのさまざまな年代の活動者が一緒になって、地域のニーズを把握し、課題解決に取り組んできました。その後、平成23年に法人化。当時すでに社会福祉協議会を退職していた四戸さんは、実家の農業を継ぐことを視野に入れつつ、資格を活かして小・中学校で講師を務めるなどしていました。

現在は、「目の前の地域課題の解決に向けた住民主体の活動展開」を第一の目標として掲げ、さらに10年後、20年後を見据えながら、今と未来のために事業を展開しています。その柱は「子ども活動支援事業」「地域活性化事業」「福祉セーフ

ティネット事業」「ボランティア市民活動NPO活動支援事業」の4つ。具体的には、支援の依頼に応えたり、小・中学生を対象にした地域教育推進プログラムを実施したりと、幅広く活動しています。

このように取り組む中、仲間とともに課題は何かについて話し合った際、「これって男女共同参画の問題だね」と気づいたといいます。平成29年からは町内の中学校で男女共同参画をテーマに講座を実施しています。平成30年には三八地域男女共同参画ネットワークに加入。高齢者の引退などで、団体が始まった当初よりも活動者が減少していますが、逆に当時より広がっている人脈を活かして、機動力を高めています。「自分たちだけでやろうとすると、きつと行き詰まる。だからコラボするんです」。同じ目的をもって多様な分野の人たちと一緒に、町の活性化につながる事業を実現させています。

農業も含めてさらなる飛躍を

最近では本業の農業も軌道に乗ってきた四戸さん。「農業をベースに、農家から福祉に働きかける農福連携に取り組んでいきたいですね」。

地域の課題として、今後、農作放棄地の問題や、後継者の問題が増えてくることも考えられます。福祉、教育、農業とさまざまな現場で経験を積んだ四戸さんだから、そのノウハウをきつとなんぶねっとの活動に活かしてくれることでしょう。さらなる活躍に期待がかかります。

私が男女共同参画を 担当しています

南部町住民生活課
主事
市澤 緑梨 さん



南部町では「南部町男女共同参画基本計画」を策定し、性別や年齢、置かれた社会状況にかかわらず、誰もがどんな場面でも、一人の人間として尊重される社会を目指しています。

具体的な環境づくりとして、女性が働きやすいように、育児や介護休業制度の周知と活用促進を行っています。育児については、近年特に力を入れ、「なんぶわらしフェスタ」を昨年度初めて開催しました。親子のイベントを開いて育児支援を図ろうというもので、さまざまな体験ブースを用意し、たくさんのご家族にご参加いただきました。その時に三八地域男女共同参画ネットワークの事業の一環で講演会も開き、男性の家事育児参画について理解を深める機会になりました。また、当町では女性消防団員の活躍が特徴的です。現在女性消防団員は25名。防災訓練や町内のイベントで、地域の防災意識の啓発に努めています。

役場ではなかなか届かないところを、NPO法人なんぶねっとに担っていただいています。男女共同参画の視点を持ちながら幅広く活動しているため、地域に団体が少なくなっているなかで、とても貴重な存在です。イベントにも出店して、町の盛り上げ役として一役買っていたいだいています。町としても最大限サポートして、今後も活躍していただきたいと思います。

(取材：井藤 雪香)